

検討会参加者からの意見概要（庄内空港）

公益社団法人鶴岡青年会議所 理事長 鈴木 俊将

- ・庄内の青年経済人にも関西方面と仕事をしている人がかなりいる。伊丹便でも関空便でもいいので、関西方面の新規路線をお願いしたい。

一般社団法人酒田青年会議所 専務理事 高橋 靖

- ・販路はどんどん広がっている傾向にあり、我々の活動エリアも変化している。関西方面への便を増やしてもらいたい。
- ・地域の子供たちが滑走路やコックピットを見たり触れたりできるような、地域密着型の企画をお願いしたい。

慶應義塾大学 先端生命科学研究所 訪問研究員 石井 千晴

- ・駐車場が無料であることが素晴らしい。
- ・県外への出張の際に、航空機の乗り継ぎや、新潟空港からの利用となってしまう。関西、九州方面への新規路線を希望。
- ・庄内空港1便目を利用する際、手土産や朝食を買える店が少ない。空港に早到着いても必要なものを購入できる店が欲しい。
- ・早目に着いても、子供が待ってられるようなキッズスペースがあるとよい。
- ・LCCのように低価格帯を選べる選択肢があることは大きい。

東北公益文科大学公益学部 政策コース 3年 山下 紗枝

- ・今の庄内空港には魅力が少ないことから、空港利用者だけでなく、見送りに来た人、訪れる人全員が楽しいと思える魅力ある空間になってほしい。
- ・将来ビジョンとして、①庄内の魅力を最大限感じることができる空港、②外国人向けのサービスで印象付ける空港、③仕事で疲れている人を癒す空港を提案する。
- ・これを実現するための提案として、加茂水族館とのコラボレーションと、足湯設置を考えた。まず、クラゲ展示種類数世界一の加茂水族館の協力を得て、チェックイン・カウンターまたは到着ロビーに、クラゲが群泳するトンネル型水槽を設置する。すべての乗降客はゆったりと泳ぐクラゲを見上げながらトンネルを通過し、癒しを受け取る。さらに山形県は全市町村に温泉があり、足湯のお湯は週替わりで温泉地を変更し、空港から山形の温泉の魅力を世界に発信する。
- ・2023年世界で最も素晴らしい空港第一位に選ばれたシンガポールのチャンギ国際空港を参考とした。

東北公益文科大学公益学部 国際教養コース 3年 白山 幸輝

- ・戸沢村のように外国人を呼びたいが空港からのアクセスが不十分な地域がある。秋田空港から横手市までの予約制乗合送迎車「よこてWARP」のような交通アクセスの整備が必要である。
- ・留学の経験から、多言語対応のスタッフの配置や多言語での表示など、言葉が通じなくて困っていることをわかってもらえるような環境が空港にあればいい。
- ・私たちが空港や海外に興味を持てる環境づくりとして、これまで空港で行っているようなイベントや、11月に酒田市内で開催した台湾フェスタのようなイベントを引き続き空港で開催してもらいたい。

東北公益文科大学公益学部 国際教養コース 4年 及川 龍之介

- ・海外の航空大学へ数名で短期留学した際の経験より、羽田から成田への空港乗り継ぎにおいて、電車やモノレールでの移動もあり、荷物が重く大変だという意見が多かった。観光客や留学生などが航空機を利用しやすい環境づくりとして、関西方面便の復活をお願いしたい。
- ・学生として、低価格で利用できるLCCが就航するとよい。

湯野浜温泉旅館協同組合 副理事長 阿部 公和

- ・湯野浜温泉は空港に一番近い温泉地ということで、リラクゼーションやショッピングといった空港機能の一部を「湯野浜エア－温泉ターミナル」として温泉地内を利用してはどうか。空港内に新たな施設を作るより、既存の施設をネットワークで結ぶことで有効活用できる。
- ・二次交通の施策として、貨客混載のシステムを提案する。ビジネス客や国内外から個人や団体の観光客が入り乱れ、客のニーズが多様化している中、旅客輸送のみの二次交通施策は成り立たない。2024年問題による流通コスト高、就労者の高齢化、働き手の移動手段、食材の仕入れなどの諸問題に対し、混載は役に立つのではないか。滑走路延長は必達の目標ではあるが、できることから改善してほしい。
- ・プライベートジェットを複数機所有しているような富裕層の外国人が日本にたくさん来ている中、庄内地域を世界に開こうとすれば空港しかない。庄内空港は、この地域において世界とつながる唯一の生命線。
- ・庄内に先ず来てもらうための施策を進めてほしい。また、限られた予算を効果的に使ってほしいので、施策成果の効果検証を公開してほしい。

一般社団法人 DEGAM 鶴岡ツーリズムビューロー 常務理事 大宮 将義

- ・鶴岡市では今年3月に「鶴岡市中期観光戦略プラン」を策定し、「全ての道は出羽へ通ずる」を将来ビジョンとして掲げている。庄内の観光事業者が一丸となって外国人を迎える機運の醸成が必要。
- ・昨年行ったインバウンド客を対象としたアンケートの結果、回答言語の8割が英語で、フランス、ドイツなど欧米の方々が多く、行先は、羽黒山、月山など出羽三山に因む場所が多い。これは、ガイドブックの影響で、アクティビティ体験や生まれ変わり、精神文化などのキーワードに欧米の方の興味注がれるから。
- ・県の観光計画も合わせながら、庄内空港機能強化などの議論を進めていくべきである。
- ・冬期間の安全で安定した就航が可能となる機能拡充をお願いしたい。
- ・「おいしい庄内空港」の“おいしい”と“庄内”の間に「出羽」というフレーズをプロモーション的に取り込めればいい。

一般財団法人酒田DMO 理事長兼事務局長 荒井 朋之

- ・戦略的に、酒田舞妓の「舞妓」をキーワードにプロモーションを行っている。
- ・県の交通政策全体も含めて空港将来ビジョンを検討してもらいたい。
- ・インバウンドの空路における出入口を、山形空港から入り庄内空港から出る、或いは庄内空港から入り山形空港から出る、とすることにより県内を周遊できる仕組みを作れば、銀山や蔵王のオーバーツーリズムの緩和にもつながる。
- ・オーバーツーリズムになって溢れた客が、他県に逃げないような仕組みをビジョンに入れることが大切。

The Hidden Japan 合同会社 代表 山科 沙織

- ・欧米をターゲットとしたインバウンド旅行会社を経営する中で、庄内に来る場合は、JR新潟駅経由で入り、庄内空港から空路で帰る客も少なくない。大阪から来る場合は、山形空港を利用する客が多いので、庄内空港も伊丹便があるとインバウンドの集客につなげやすい。山形空港は札幌便もあるため、旅行会社としてはツアーを組みやすい。
- ・小さい頃は、庄内空港は特別な存在であったが、現在は身近な存在になって、飛行機を利用するだけで、空港自体を楽しめる仕掛けがない。空港で待ち時間を楽しく過ごせるような仕掛けがあればと思う。例えば写真を撮りたくなるようなスポットなど。
- ・空港内の案内所では、言語対応できるスタッフを配置し、そこで体験ツアーを予約できるような、周遊につながる仕掛けが欲しい。

鶴岡商工会議所 専務理事 高橋 健彦

- ・庄内空港の大きな特色は、ビジネスと観光の双方を重視しているところ。
- ・酒田市の洋上風力発電、慶応義塾大学先端生命科学研究soからの様々なベンチャー企業、好調の半導体関連、公益大の公立化などのビジネス需要から、空港需要の増大が見込まれる。
- ・最近庄内便の予約が取りにくく、機材の大型化、安定就航を目指す必要から、インバウンドの面も含めて、滑走路2,500m化が必要。
- ・羽越線は大雨で止まるし、新幹線も今後の進展を見通すことは並大抵ではない。我々は空路でビジネスをし生き残っていく、地域を盛り上げていく、これがビジョンであると思っている。

酒田商工会議所 専務理事 阿部 勉

- ・地方にとって最大の課題は人口減少であり、中央や地方と闘っていくためには最低限の交通インフラが必要である。空路、道路、鉄道、ローカルバス、タクシーなどが切れ目なく繋がる総合的なネットワークが必要。
- ・その中で庄内空港へは、①滑走路2,500m化と不足がちな駐車場の整備、②国内線と国際線の動線分離、CIQの整備、③羽田発着枠政策コンテストによる羽田便の通年5便化を要望する。
- ・特に滑走路の延長については、国内線の安定就航、国際チャーター便の誘致につながり、その利用者の拡大が見込める。
- ・その需要予測に基づいて、今検討されているビルのあり方について、どれだけ増築するのか期待している。
- ・滑走路延長について、国の補助をもらうために、国のどの整備手法を選択するのか。
- ・何年先を見据えたビジョンになるのかが気になる。
- ・国の第7次エネルギー政策の目玉は、浮体式の洋上風力発電事業になることから、新たなビジネスチャンスが生まれてくるので、滑走路延長の取組みが重要である。

鶴岡市企画部 地域振興課長 菅原 青

- ・庄内空港によって、庄内や近隣に住む人たちが、国内の遠方や海外とつながることができる。人口減少の中、交流人口の拡大が必要だが、高規格道路も完全には繋がっておらず、羽越新幹線も動きがない状況の庄内地域では、地域間交流における空港の果たす役割は、他の地域に比べ相対的に大きい。
- ・ビジネスや観光において、滑走路の延長により、気象条件に左右されず安定して離発着できることが非常に大事である。安定輸送により、災害時に道路ネットワークと相互に補完しあって県民の安全安心確保につながる。
- ・滑走路延長については、地域に必要なインフラとして事業費の多寡や費用対効果に引っ張られず、地域にとってどれだけ必要なのかを今回のビジョン検討の中で明らかにしていく必要がある。県全体の高速交通機関の役割分担を考えて、総合的に検討を進めていくのがよい。
- ・地域として、様々な分野と連携した空港の利活用や羽田便の利用促進により通年5便化につなげたい。
- ・駐車場が手狭になってきている。

酒田市 企画部長 中村 慶輔

- ・庄内空港と山形空港は、それぞれの特徴を活かした役割分担により、県内経済の活性化、観光振興を図るべきと考える。その上で、庄内空港と山形空港、二つの空港の滑走路を2,500mに延長していただきたいと考える。
- ・山形空港は、神町駐屯地があるので防災拠点として位置付けし、今ある複数路線を利点として山形空港の利用を促進すべき。
- ・庄内空港は、今後のインバウンド需要も見据えて滑走路延長することは意義のあること。新庄酒田道路、庄内内陸月山連絡道路が全線開通すれば、庄内空港から銀山温泉や蔵王温泉までのアクセスがよくなるし、庄内の温泉地へインバウンド効果が大きく波及する。
- ・期間限定の5便化後も、搭乗者数はコロナ禍前より多く、搭乗率も70%を超えた状態が続いている。今後も、洋上風力発電事業が進み、羽田線の需要はますます旺盛になる。
- ・山形県と福島県を結ぶ山形新幹線のトンネル整備費を考えれば、庄内と山形の二つの空港の滑走路延長に十分に組み入れるのではないかと。
- ・そのほか、ビルの内際分離及びC I Q体制の整備、羽田線の通年5便化、駐車場の立体化による拡充をお願いしたい。

三川町 企画調整課長 佐藤 亮

- ・同じ滑走路長2,000mの富山空港、佐賀空港でも国際線の発着が多いことがわかった。滑走路を延長するには相当の時間と事業費を要することから、それまでの間は、地域としてできる取り組みを進め、国際便就航の実績を増やすべきであり、今後期待したい。
- ・庄内空港の公園について、遊具を充実したり、スケートボードパークやバスケットボールの3on3コートなどの若者が来るような設備を作ったり、住民が来たくするような環境整備も必要。

庄内町 企画情報課長 樋渡 真樹

- ・「湯野浜温泉は、外国から羽田に到着したお客様にとって、一番近い温泉」と聞いたことがある。これは庄内空港の魅力であり、強みでもある。
- ・利用者が減少したから事業を縮小するといった考え方ではなく、利便性を高めることにより利用者を増やしていける空港にしていく視点で考えることが重要である。
- ・機能強化に国の財政的支援をしていただけるよう働きかけていくことが重要。
- ・庄内町として庄内空港に対する期待は大きいので、引き続き一緒に頑張りたい。

遊佐町 企画課長 渡会 和裕

- ・ 駐車場無料は庄内空港の強みである。ぜひ続けてほしい。
- ・ 空港内で手土産を買えることは非常にありがたい。できれば遊佐町の特産品などを置いて手土産として購入してもらいたい。
- ・ 遊佐町も人口減少傾向の中、交流人口の拡大が非常に重要であり、遊佐町単独でできることは限られている、地域として協力しながら進めていきたい。空港に関連した観光振興事業的なものを何か考えたい。

茨城大学 学術研究院応用理工学野 教授 平田 輝満

- ・ 学生も含め多様な人が参加して、多様な意見を集めてビジョン検討に繋げていく、この体制が素晴らしい。
- ・ 海外では、数十年先を見据えたマスタープラン（長期計画）のもとに、向こう5年間整備を行っている。日本では空港自体が長期のマスタープランを持っているのはレアケース。
- ・ 庄内空港に対する県民や産業界の関心が高いので、まだまだ潜在的な意見やアイデアがあると思う。継続的に意見を集めていくとよい。
- ・ 航空産業全体として、人手不足や環境対策の面でコストが上がり、航空路線の選定はシビアになっている。地方空港に長距離の新規路線を確保するのは困難な時代。東北全体で長距離の路線を誘致していくような考えが必要である。その中で滑走路の2,500m化が必要か冷静に考える必要がある。
- ・ ただ2,000mでは平均から見ると短いので、気象面から安全性確保対策は必要。
- ・ 2,500mに限らない延長の検討や、機材の性能が上がってきてより短い滑走路で飛べるようになってくるなど、技術検討も含めて、これが最良の案かどうかを継続的に検討したほうがよい。
- ・ ターミナルビルの動線分離や拡張、C I Q整備については是非進めるべきである。
- ・ 駐車場無料はいいが、ターミナルビルに近いところを有料化するなど、取れるところからお金をとることも考えるべきで、その収益を活用して公共交通による二次交通の利用拡大になれば環境対策にもつながる。

山形大学人文社会科学部 教授 山田 浩久

- ・ 滑走路延長の検討で、保安林を外して計画していることは賢明である。保安林を伐採したら環境アセスメントがかなりかかるし、塩害で広く田んぼが枯れる。
- ・ 風に対する問題はあるかもしれないが、滑走路を1本別に角度を変えて作ればいいのではないかと。
- ・ 鉄道は、盲腸線が廃線になりやすい。空港も同様になると思うので、HUB化はもちろん、山形空港や仙台へ抜ける陸上路線とのリンクを考えることも重要である。
- ・ 滑走路延長は時間とお金がかかるので、今あるもので利益を上げることを考えていく必要がある。
- ・ インバウンドは東北全体で数%であり爆発的に増える可能性もないし、人口も増えない中、客単価を上げるしかない。例えばプライベートジェットなど、将来ビジネスチャンスはどう作っていくか考えないといけない。滑走路を延長すれば、客が増えるというわけではない。
- ・ 庄内空港にとって高速道路と港湾が近くにあることは大きなメリット。メリットを生かして、ビジネス客の観光客化も有効だし、利用率を上げるために貨物の利用も有効。空港周辺に工業団地を作れば、工業団地と高速道路、港湾、空港が直結して製造業の利益も見込める。
- ・ 「さくらんぼ東根駅」のように、名前はプロモーションに大きく影響する。例えば、「湯野浜温泉空港」とか「くらげ空港」などつけたらいい。
- ・ 一つのビジョンだけでなく複数のビジョンをまとめ、総合的に最終的な利益を具体的に考えながら、空港を使って何をするのか考えることが必要。